

6-1 1 / 5時の指導計画

(1) 目 標

文語のきまりや音読の仕方を知り、古文を音読して、古文特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れることができる。

(2) 展 開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 :Cの状況の生徒への手立て:
導入	1 「竹取物語」に興味をもつ。 2 単元の目標を知る。 昔話とその元になった古典を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴について紹介しよう。 3 本時の目標を知る。	学習計画表	○「かぐやひめ」の話を出し、思い出させる。 ○日本最古の物語である「竹取物語」を学習し現在も読まれている昔話とその原典である古典とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介する活動を行うことを知らせる。	「竹取物語」の古文の冒頭部分を繰り返し音読し、古文のリズムに慣れよう
展開	4 「竹取物語」の冒頭部分の音読をして内容のあらましを知る。 [手順] 1) 冒頭部分の現代語訳を読む。 2) 教師の古文の冒頭部分の範読を聞く。 3) 教師の後について一斉に古文の冒頭部分を読む。 4) 原文を区切ってペアで読む。 5) 一斉に読み、その後個人で音読の練習をする。 5 教科書の「古典の仮名遣い」を読み、歴史的仮名遣いのきまりを知る。 6 「竹取物語」の古文の冒頭部分を音読しながら視写する。	ワークシート①	○「竹取物語」の冒頭部分の現代語訳を使い、内容を大まかに解説する。 ○教師が古文の冒頭部分を範読し、読み方を確認する。 ○繰り返し音読することによって、文語の響きや古文特有のリズムを味わわせる。 ○全員が暗唱できるようになるまで、練習する。 ○教科書の「古典の仮名遣い」を読ませ、現代仮名遣いとの違いやリズムを視覚的に確認できるようにする。 ○視写をする際、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを実感させるようにする。	【関①】 古典の文章に関心を持ち、進んで古典に触れようとしている。 【観察、学習計画表】 【言①】 文語のきまりや音読の仕方を知り、古文を音読して、古文特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れている。 【観察、ワークシート①】 音読が難しい生徒は、教師の範読の後につけて読ませて練習させる。
まとめ	7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	学習計画表	○次時は「竹取物語」の内容をつかむことを知らせる。	